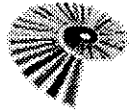


日本室内楽振興財団

日本音楽財団
JAPANESE MUSIC FOUNDATION



YOKOHAMA
OTOMATSURI

横浜音楽祭2022公募サポート事業

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 49

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年9月5日(月) 19:00 開演

アタッカ・クアルテット

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第10番 Op.95「ハーブ」

P.ヴィアンコ：弁慶の立ち往生

C.ショウ：アントラクト（休息）

ラヴェル：弦楽四重奏曲

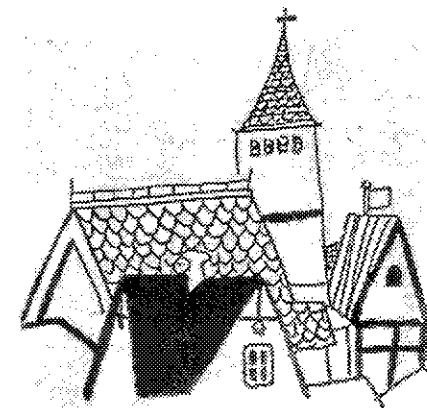


YOKOHAMA
OTOMATSURI

サルビアホール
クアルテット・シリーズ

Salvia-hall Quartet Series

147



Salvia-hall Quartet Series 147

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

アルディッティ・クアルテット

ベルク
Alban BERG
(1885-1935)

弦楽四重奏曲 作品3
String Quartet Op.3
Langsam
Mäßige Viertel

デュティユー
Henri DUTILLEUX
(1916-2013)

弦楽四重奏曲「夜はかくのごとし」
String Quartet "Ainsi la nuit"
Nocturne
Miroir d'espace
Litanies
Litanies 2
Constellations
Nocturne 2
Temps suspendu

細川俊夫
HOSOKAWA Toshio
(1955-)

パッサージュ (通り路) ~ 弦楽四重奏のための
Passage, for string quartet

リゲティ
LIGETI György
(1923-2006)

弦楽四重奏曲 第2番
String Quartet No.2
Allegro nervoso
Sostenuto, molto calmo
Come un meccanismo di precisione
Presto furioso, brutale, tumultuoso
Allegro con delicatezza

アルディッティ・クアルテット
ARDITTI QUARTET (London, U.K.)

ヴァイオリン: アーウィン・アルディッティ アショット・サルキジャン
Violin: Irvine ARDITTI Ashot SARKISSJAN

ヴィオラ: ラルフ・エーラーズ チェロ: ルーカス・フェルス
Viola: Ralf EHLERS Violoncello: Lucas FELS

2022年 9月 1日(木) 午後7時開演 / サルビアホール3階音楽ホール
Thursday, 1 September 2022 7:00P.M.
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会

共催: 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

アルディッティ・クアルテット



1974年にアーヴィン・アルディッティが創設し、活動を開始した。現代作品そして20世紀初期の作品の深い解釈と卓抜した演奏は、世界各地に広く知られ、高い評価を確立している。この40余年の間に、数百もの弦楽四重奏曲がこのクアルテットのために作曲され、パートウィスル、ケージ、カーター、ディロン、ファーニホウ、グバイドゥーリナ、ハーヴェイ、細川、カーゲル、クルターク、ラッヘンマン、リゲティ、ナンカロウ、レイノルズ、リーム、シェルシ、シュトックハウゼン、クセナキスなどの作品を世界初演している。日本人作曲家の作品も数多く録音・演奏しており、作曲家とともに作品の解釈を深めていく彼らの演奏を経て、それらの多くが今世紀の代表的なレパートリーとなっている。CDは170枚を超え、新ウィーン楽派の作曲家による作品の初デジタル録音となった録音は1992年国際批評家賞を受賞、またベリオが亡くなる直前にその弦楽四重奏曲を全曲録音、1999年にはエリオット・カーター作品集、2002年にはハリソン・パートウィスルのCDでそれぞれグラモフォン賞を受賞した。1999年にエルンスト・フォン・シーメンス賞など数々の賞を受賞している。日本での活動は、1988年に武満徹が主宰するミュージック・トゥデイに招かれて初来日して以来、定期的に公演を行っている。2006年、2007年、2008年と連続してジョン・ケージの「アパートメントハウス 1776」から44のハーモニーをアルディッティが編曲したものを基に、コンテンポラリーダンスの白井剛(演出・映像・振付も)したダンスバージョン「44のハーモニー〜アパートメントハウス 1776より」を日本各地で公演、好評を得ている。2012年のケージ年では野村萬斎らと共演した。2014年に結成40周年を迎え、サントリーホール「サマーフェスティバル 2014」デビューほか、水戸芸術館、「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」にてコンサートを行った。

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSICAL FOUNDATION



YOKOHAMA
OTOMATSURI

横浜音楽祭2022公募サポート事業



YOKOHAMA
OTOMATSURI

サルビアホール
クァルテット・シリーズ

Salvia-hall
Quartet
Series

148

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 49

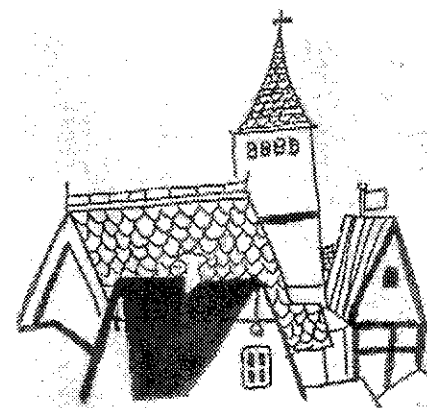
QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年 9月13日(火) 19:00 開演

クァルテット・エクセルシオ

ラボ・エクセルシオ ～ ショスタコーヴィチ・シリーズ #3

ショスタコーヴィチ： 弦楽四重奏曲 第7番 Op.108
弦楽四重奏曲 第8番 Op.110
弦楽四重奏曲 第9番 Op.117
弦楽四重奏曲 第10番 Op.118



Salvia-hall Quartet Series 148

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

アタッカ・クアルテット

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 作品74「ハーブ」
Ludwig van BEETHOVEN String Quartet No.10 in E flat major Op.74 "Halfe"
(1770-1827) Poco adagio - Allegro
Adagio ma non troppo
Presto
Allegretto con variazioni

P.ヴィアンコ 弁慶の立ち往生 〈日本初演〉
Paul WIANCKO Benkei Standing Death (Japanese premiere)
(1983-)

C.ショウ アントラクト (休息)
Caroline SHAW Entr'acte
(1982-)

ラヴェル 弦楽四重奏曲 ヘ長調
Maurice RAVEL String Quartet in F major
(1875-1937) Allegro moderato. Très doux
Assez vif. Très rythmé
Très lent
Vif et agité

アタッカ・クアルテット ATTACCA QUARTET (New York, USA)

ヴァイオリン: エイミー・シュローダー トメニク・サラーニ
Violin: Amy SCHROADER Domenic SALERNI
ヴィオラ: ネイサン・シュラム チェロ: アンドリュー・イー
Viola: Nathan SCHRAM Violoncello: Andrew YEE

2022年 9月 5日(月) 午後7時開演 / サルビアホール3階音楽ホール
Monday, 5 September 2022 7:00P.M.
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会
共催: 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体
助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団
協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

アタッカ・クアルテット



2003年にジュリアード音楽院で結成、2011年大阪国際室内楽コンクールでの第1位受賞をはじめ、メルボルン国際室内楽コンクール第3位及びABCクラシックFM視聴者賞などで多数の入賞を果たしている。

近年の活動には、米国内ではカーネギー・ホール、リンカーン・センター、米国外ではイェーテボリ・コンサートホール、ソシエダ・フィラルモニカなどへの出演があり、中南米や日本へのツアーも予定されている。今回の来日では、ジョン・アダムズ《アプソリュート・ジェスト》を演奏する予定だが、カルテットはこの作品を作曲者自身の指揮のもと、バルセロナ交響楽団とスペイン国立管弦楽団で演奏しているほか、カプリロ現代音楽祭ではマリン・オルソップとも共演している。

現代の作品に情熱を傾け、レコーディングに取り組んでおり、ディスク《Orange》はピューリッツァー賞を受賞した作曲家であるキャロライン・ショウの弦楽四重奏作品を取り上げ、2020年グラミー賞を受賞した。2021年にはソニー・クラシカルと専属契約を結び、ルネッサンスとミニマリストをつなげる独自コンセプト・アルバムとして『オヴ・オール・ジョイズ』をリリースし、批評家などから絶賛された。コロナ禍でもバンフ・センター、オースティン室内楽センター、シュチェチン・フィル(ポーランド)などとデジタル配信の展開を進め、「アタッカ」(音楽用語で、楽章間を休みなく演奏し続けること)という名にふさわしく多忙な日々を送っている。

ベートーヴェン： 弦楽四重奏曲 第 10 番 変ホ長調 作品 74 「ハーブ」

1809 年、ベートーヴェン 39 歳の作曲、有名なピアノ協奏曲第 5 番「皇帝」に引き続いて書かれたまさに最も充実していた時期の作品。翌年に書かれたピアノ・ソナタ第 26 番「告別」や、弦楽四重奏曲第 11 番「セリオソ」、交響曲の第 7 番、第 8 番など、ハイドンやモーツァルトを手本とする古典派としての到達点をなす時期である。これらの曲は、いずれも大変シンプルだが、密度の濃い充実した作品で、古典派作品の最高傑作といえよう。「ハーブ」という呼び名は、第 1 楽章の各所に出現するピツィカート奏法がハーブの響きを想起することによっている。ベートーヴェンの重要な後援者で、作品 18 の弦楽四重奏曲 6 曲をはじめ交響曲第 5 番、第 6 番などを献呈したチェコ出身の貴族ロブコヴィッツ侯爵に捧げられた。

P.ヴィアンコ： 弁慶の立ち往生

ポール・ヴィアンコは、カリフォルニア州サンクレメンテの出身（現在はニューヨーク在住）のチェリスト、作曲家、アレンジャー、プロデューサー・・・と、多彩な活動をしている。チェリストとしては、2007 年のルトスワフスキ国際コンクールで第 2 位になり、ハーレム・クアルテットのメンバーとしても活動した。作曲家としては 2018 年に S&R 財団ワシントン賞を受賞、日本をテーマとする作品も多数発表している。「弁慶の立ち往生」は、アタック・クアルテットの委嘱によって 2020 年に作曲。武蔵坊弁慶と源義経の出会いと終わりを音楽的に凝縮した曲で、弁慶が 1000 本の太刀を奪おうという企みの最後に京の五条大橋で牛若丸に出会うという「1000 人目の出会い」と、平泉で藤原泰衡軍の襲撃を受け主君・義経を護るため敵前に仁王立ちとなって最期を迎えた「衣川の戦い」から成る。前半では、ピチカートとトレモロが情景描写に効果的に使用され、後半では弁慶最期の緊迫した場面が描かれている。



後半では弁慶最期の緊迫した場面が描かれている。

C.ショウ： アントラクト

キャロライン・ショウは、1982 年生まれの作曲家、ヴァイオリニスト、歌手で、母親の指導でヴァイオリンを始め、10 歳頃からはモーツァルトやブラームスの室内楽を模倣しながら作曲も始め、2013 に作曲した「8 声のためのパルティータ」によって最年少の 30 歳でピューリッツァー賞を、翌 14 年にはグラミー賞をも受賞している。「アントラクト」は 2011 年の作曲、ブレンターノ・クアルテットが演奏した弦楽四重奏曲 Op.77-2 (30 日にタカーチ Q が演奏する) を聴いて、その第 2 楽章でメヌエットからトリオへの変化に刺激を受けたのがきっかけという。ショウは、「Entr' acte は伝統的なメヌエットとトリオの構造を礎にしつつ、古典派の作品の常識より少し外れたアプローチをとっている。私は個人的にこのハイドンのメヌエットのような、突然鏡の国のアリスの世界に連れ去られてしまうような音楽が大好きだ。何だか妙で、繊細で、フィルターがかかったような世界。溶けてしまったような比喻と、下手くそな頭韻に溢れる世界。何となくごまかされているような、それでいて妙に懐かしい世界。」と述べている。

ラヴェル： 弦楽四重奏曲 へ長調

ドビュッシーとともにフランス印象派を代表するモーリス・ラヴェルは、唯一の弦楽四重奏曲を 27 歳の 1903 年に完成させている。翌 04 年の国民音楽協会の演奏会でエイマン四重奏団によって初演され、「わが親愛なる師ガブリエル・フォーレ」に捧げられた。この初演は、大反響をよび、ドビュッシーも絶賛したが、ラヴェル自身はこの成功に満足せず、かなり大幅な改訂を加え出版した。第 2 楽章（スケルツォ）は、ピツィカートによって奏され、中間部では全員が弱音器を付けて精緻な音楽を展開する。

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



横浜音祭り2022公募サポート事業



サルビアホール
クアルテット・シリーズ

Salvia-hall
Quartet
Series

149

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 49

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年9月30日(金) 19:00開演

タカーチ・クアルテット

ハイドン：弦楽四重奏曲 第67番 Op.77-2

コールリッジ＝テイラー：5つの幻想的小品 Op.5

シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 D.810「死と乙女」



Salvia-hall Quartet Series 149

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

クアルテット・エクセルシオ

ラボ・エクセルシオ ショスタコーヴィチ・シリーズ Vol.3

ショスタコーヴィチ 弦楽四重奏曲 第7番 嬰ハ短調 作品108
Dmitry SHOSTAKOVICH String Quartet No.7 in F flat minor Op.108
(1906-1975)

Allegretto
Lento
Allegro

弦楽四重奏曲 第8番 ハ短調 作品110
String Quartet No.8 in C minor Op.110

Largo
Allegro molto
Allegretto
Largo
Largo

弦楽四重奏曲 第9番 変ハ長調 作品117
String Quartet No.9 in E flat major Op.117

Moderato con moto
Adagio
Allegretto
Adagio
Allegro

弦楽四重奏曲 第10番 変イ長調 作品118
String Quartet No.10 in A flat major Op.118

Andante
Allegretto furioso
Adagio
Allegretto

クアルテット・エクセルシオ
QUARTET EXCELSIOR (Tokyo, JAPAN)

ヴァイオリン: 西野 ゆか
Violin: NISHINO Yuka

北見 春菜
KITAMI Haruna

ヴィオラ: 吉田 有紀子
Viola: YOSHIDA Yukiko

チェロ: 大友 肇
Violoncello: OTOMO Hajime

2022年 9月13日(火) 午後7時開演 / サルビアホール3F音楽ホール

Tuesday, 13 September 2022 7:00P.M.
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会 / NPO法人エク・プロジェクト

横浜市鶴見区民文化センター

共催: サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団
文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

クアルテット・エクセルシオ



年間 70 公演以上を行う日本では数少ない常設の弦楽四重奏団。ベートーヴェンを軸に王道のレパートリーを展開する東京、京都、札幌での定期公演、20 世紀以降の現代作品に光を当てる“ラボ・エクセルシオ”「20 世紀 日本と世界」シリーズ、人気傑作選「弦楽四重奏の旅」、01 年から出演している第一生命ホールの「クアルテット・ウィークエンド」の 4 シリーズを展開しつつ国内外で活動、また幼児から学生のためのコンサートや地域コミュニティ・コンサートを通じて、室内楽の聴衆の輪を広げていく活動にも力を注いでおり、本年は結成 25 周年を迎える。

1994 年に結成。96 年第 1 回東京室内楽コンクール第 1 位、同年大阪国際室内楽コンクール第 2 位、97 年青山音楽賞奨励賞 (現バロックザール賞) を受賞、2000 年にはパオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクールで最高位 (1 位なしの 2 位) を受賞した。

NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHK-FM「FM リサイタル」等の放送番組にも出演するとともに、ウズベキスタン共和国 (2006 年)、ルーマニア (2009 年)、米・ホノルル (2011 年) に招聘されるなど、国際社会における日本の文化交流も積極的に行っている。

CD は「QUARTET EXCELSIOR」「QUARTET EXCELSIOR ~ 死と乙女」「林光の音楽」「日本の作曲: 21 世紀へのあゆみ」など多数をリリースしている。

2008 年度新日鉄音楽賞受賞。15 年にはホテルオーケストラ音楽賞を受賞した。

サントリーホール室内楽アカデミーでコーチング・ファカルティとして、後進の指導にもあたるなど、更に弦楽四重奏の魅力を伝えるべく邁進している。この春から、第 2 ヴァイオリンにはサントリーホール室内楽アカデミー出身の北見春菜が参加している。

公式ウェブサイト: <http://www.quartet-excelcior.jp/>

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



YOKOHAMA
OTOMATSURI

横浜音祭り2022公募サポート事業



YOKOHAMA
OTOMATSURI

サルビアホール
クァルテット・シリーズ
150回記念コンサート

Salvia-hall
Quartet
Series

150

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 50

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年10月11日(火) 19:00 開演

クァルテット・インテグラ

ハイドン：弦楽四重奏曲 第36番 Op.50-1

ウェーベルン：弦楽四重奏のための緩徐楽章 / 6つのバガテル Op.5

バルトーク：弦楽四重奏曲 第6番 Sz.114



Salvia-hall Quartet Series 150

SQS 150回記念コンサート

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

タカーチ・クアルテット

ハイドン
Joseph HAYDN
(1732-1809)

弦楽四重奏曲 第67(82)番 へ長調 作品77-2
String Quartet No.67(82) in F major Op.77-2

Allegro moderato
Menuetto; Presto ma non troppo
Andante
Vivace assai

コールリッジ=テイラー
Samuel COLERIDGE-TAYLOR
(1875-1912)

5つの幻想的小品 作品5
5 Fantasiestücke Op. 5

Prelude
Serenade
Humoreske
Minuet
Dance

シューベルト
Franz SCHUBERT
(1797-1828)

弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D.810「死と乙女」
String Quartet No.14 in D minor D.810 "Der Tod und das Mädchen"

Allegro
Andante con moto
Scherzo; Allegro molto
Presto

タカーチ・クアルテット

TACÁCS QUARTET (Boulder, USA)

ヴァイオリン: エドワード・ドゥシンベル
Violin: Edward DUSINBERRE

ハルミ・ローズ
Harumi RHODES

ヴィオラ: リチャード・オニール
Viola: Richard O'NEILL

チェロ: アンドラーシュ・フェイェール
Violoncello: András FEJÉR

2022年 9月30日(金) 午後7時開演 / サルビアホール3階音楽ホール
Friday, 30 September 2022 7:00P.M.
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会

共催: 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

タカーチ・クアルテット



1975年ブダペストにて結成、77年エヴィアン(現ボルドー)国際コンクールで優勝、ならびに批評家賞を受賞したことで注目を集めた。翌78年ポーツマス(現ロンドン・ウィグモアホール)国際コンクールでも優勝した。「タカーチ」の名称は、当時の第1ヴァイオリン奏者ガボール・タカーチ=ナジに由来している。82年に北米デビュー、93年に第1ヴァイオリニストが現在のドゥシンベルに交代した。

現在は、アメリカ合衆国ボーダーのコロラド大学を拠点として、ヨーロッパ各国、オーストラリア、ニュージーランド、日本、そして韓国など世界各地で年に約90回のコンサートを開くとともに、ロンドンのサウスバンク・センターと提携して毎年数回のコンサートを開くなど、世界最高峰のクアルテットとして、高い評価を得ている。CDも多数リリースされており、中でもベートーヴェンの後期の曲集は、BBCミュージック・マガジンのディスク・オブ・ザ・イヤー(室内楽賞)に選ばれ、グラモフォン・アワード、日本レコード・アカデミー賞も受賞したほか、中期の曲集もグラミー賞をはじめグラモフォン・アワード、アメリカ室内楽賞、日本レコード・アカデミー賞など数々の賞を受賞している。またバルトークの全集は、各種の賞の受賞はもちろんのこと、最高峰の名演と高く評価されている。

2001年、ハンガリー共和国より騎士十字勲章を受章、05年からは、ハイペリオンと録音契約を結び多数のCDをリリースしている。また、後進の指導にも力を注ぎ、コロラド大学では若い才能を養い育てるため、少人数の集中したレッスンも行っている。

2018年より、第2ヴァイオリンとして設立メンバーだったカーロイ・シュランツに代わり、「深い表現力を持つヴァイオリニスト」と評されるハルミ・ローズが、ヴィオラには若く将来を嘱望されているリチャード・オニールがメンバーに加わっている。

ハイドン：弦楽四重奏曲 第 67 (81) 番 ト長調 作品 77-2

未完の第 68 番を含めて最後から 3 番目、1799 年、ハイドン円熟の 67 歳の作。ベートーヴェンが「英雄」交響曲を献呈（とはいっても、後には年金不払いで訴えてもいるが・・・）したことで知られるロブコヴィツ侯爵の依頼で 6 曲を書くこととしたが、実際に完成したのは 2 曲のみで、その第 2 番。ハイドンが完成させた最後の弦楽四重奏曲、ここまで来るとベートーヴェンの初期のものと紙一重、第 2 楽章「メヌエット」もベートーヴェンが採用する「スケルツォ」を想起させる。「雲がゆくまで待とう」というタイトルが付けられるが、第 1 楽章の第 1 主題が同名のイギリスの古い民謡に依拠していることに由来するという。

コールリッジ＝テイラー：5つの幻想的小品 作品 5

コールリッジ＝テイラーは、アフリカのシエラレオネ出身の医師とイギリス人女性を父母としてロンドンに生まれた。王立音楽院でスタンフォードに師事し、作曲家としてデビューしたが、その才能はエルガーからも絶賛された。30 歳を目前とする 1904 年にアメリカにデビュー、高い評価を得て、指揮もする作曲家として「黒いマーラー」とよばれ、セオドア・ローズヴェルト大統領（日露戦争の終結を仲介した！）によってホワイトハウスにも招待された。死後はほとんど忘れた存在となったが、1990 年代に埋もれていた初期の室内楽作品が演奏され、録音もされたことでアメリカで再評価が進んでいる。この「5つの幻想的小品」もその 1 つで 1898 年の作曲、キャラクターの異なる 5 曲で構成されている。

シューベルト：弦楽四重奏曲 第 14 番 二短調 D.810 「死と乙女」

シューベルトは、今から見れば短い 32 年弱の生涯に、15 曲（正確には 14 曲と 1 楽章）の弦楽四重奏曲を作曲している。彼が活躍した 19 世紀前半ともなると、もう貴族の力は弱まり、代わって有産市民層（ブルジョワジー）が台頭し、音楽を楽しむようになっていのだが、小学校長の息子であったシューベルトもそうした 1 人で、当初は家族や友人たちと演奏して自ら楽しむために弦楽四重奏曲を作曲した。しかし、作曲家として成長し、プロの演奏家との交流も深まると、内容的にもより深く、技術面でもさらに高度な弦楽四重奏曲を書こうと考えるようになった。23 歳の 1820 年頃のこと、同年に書かれた第 12 番は、第 2 楽章の途中で中断し、放棄されたが、完成されている第 1 楽章（四重奏断章）はそれだけで演奏時間は 10 分に及び、シューベルト自身も全体では「天国的な長さ」になると予告している。これを機にシューベルトの弦楽四重奏曲は、規模の上でも、また質的にも格段の充実ぶりを示すようになる。こうして書かれたのが第 13 番「ロザムンデ」、第 14 番「死と乙女」、第 15 番の後期 3 大四重奏曲である。本日演奏される「死と乙女」は、その中でも最高傑作とされ、最も演奏機会も多い。「死と乙女」というのは、その 10 年ほど前に書いた歌曲「死と乙女」のピアノ伴奏の中の重々しい旋律を第 2 楽章（変奏曲）の主題として使用したからで、この楽章ではこの主題をもとに 6 つの変奏を展開している。完成直後に友人宅で試演されたが、公開での初演と出版はいずれもシューベルトの死後であった。

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



YOKOHAMA
OTOMATSURI

横浜音祭り2022公募サポート事業



YOKOHAMA
OTOMATSURI

サルビアホール
クアルテット・シリーズ

Salvia-hall
Quartet
Series

151

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 50

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年10月24日(月) 19:00 開演

ヴィジョン弦楽四重奏団

プロッホ：プレリュード

ラヴェル：弦楽四重奏曲

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第13番 Op.106



Salvia-hall Quartet Series 151

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

クァルテット・インテグラ

ハイドン
Joseph HAYDN
(1732-1809)

弦楽四重奏曲 第36番 変ロ長調 作品50-1
String Quartet No.36 in B flat major Op.50-1
Allegro
Adagio non lento
Menuetto; Poco allegretto
Finale; Vivace

ウェーベルン
Anton WEBERN
(1883-1945)
:

弦楽四重奏のための緩徐楽章
Langsamer Satz for String Quartet

弦楽四重奏のための6つのバガテル 作品9
6 Bagtelles for String Quartet Op.9
Mäßig
Leicht bewegt
Ziemlich fließend
Sehr langsam
Außerst langsam
Fließend

バルトーク
BARTÓK Béla
(1881-1945)

弦楽四重奏曲 第6番 Sz.114
String Quartet No.6 Sz.114
Mesto - Più mosso, pesante - Vivace
Mesto - Marcia
Mesto - Burietta
Mesto

クァルテット・インテグラ

QUARTET INTEGRA (Yokyo, JAPAN)

ヴァイオリン: 三澤 響果
Violin: MISAWA Kyoka

菊野 凜太郎
KIKUNO Rintaro

ヴィオラ: 山本 一輝
Viola: YAMAMOTO Itsuki

チェロ: 築地 杏里
Violoncello: TSUKIJI Anri

2022年10月11日(火) 午後7時開演 / サルビアホール3F音楽ホール
Tuesday, 11 October 2022 7:00P.M. at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会

共催: 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

クァルテット・インテグラ



2015年4月桐朋学園大学および桐朋学園女子高等学校音楽科に在学中の学生により結成。「インテグラ」とはイタリア語で統合や誠実さを意味する。一体性を持った演奏や音楽に向き合う姿勢を評価され、元東京クァルテットのヴィオラ奏者、磯村和英氏によって名付けられた。

17年、山崎伸子プロデュース輝く若手演奏家による「未来に繋ぐ室内楽」Vol.1に出演し、山崎伸子と共演、18～19年には、とやま室内楽フェスティバルに参加し、富山県内コンサートホールや美術館などへのアウトリーチ公演を行い、練木繁夫と共演した。19年、堤剛プロデュース「弦楽器の響」に出演し、堤剛と共演した。また、NHK-Eテレ「ららら♪クラシック」にも出演した。同年秋吉台音楽コンクール 弦楽四重奏部門 第1位、併せてベートーヴェン賞、山口県知事賞を受賞、元アルバン・ベルク・クァルテットのギュンター・ピヒラーに招待されてキジアーナ音楽院夏期マスタークラスに全額スカラシップを得て参加、イタリア各地のコンサートにて好評を博した。2021年にはハンガリーのリスト・アカデミーが主宰するバルトーク国際コンクールにおいて見事優勝した。大晦日には、東京文化会館でのベートーヴェン：弦楽四重奏曲「9曲」演奏会に出演した。また、先月開催されたARD(ドイツ放送連盟)が主宰するミュンヘン国際コンクールでは第2位に入賞すると共に「聴衆賞」も受賞した。

サントリーホール室内楽アカデミー第5期、第6期フェロー。これまでに、磯村和英、山崎伸子、原田幸一郎、池田菊衛、花田和加子、堤剛、毛利伯郎、練木繁夫に師事し、公益財団法人松尾学術振興財団より第29回助成を受けた。

先月からは拠点をアメリカに移し、ロサンゼルス超エリート校コルバーン音楽院のレジデンス・アーティストとしてクライヴ・グリーンズミス(元東京クァルテット)等の指導を受けることとなった。

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



YOKOHAMA
OTOMATSURI

横浜音祭り2022公募サポート事業

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 50

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年10月31日(月) 14:00 開演

クァルテット・ベルリン=トウキョウ

ハイドン：弦楽四重奏曲 第32番 Op.33-3「鳥」

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第16番 K.428

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第15番 Op.132

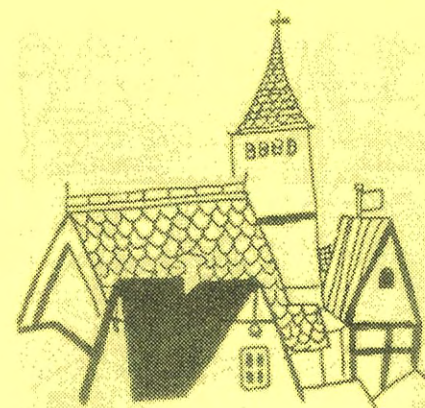


YOKOHAMA
OTOMATSURI

サルビアホール
クァルテット・シリーズ

**Salvia-hall
Quartet
Series**

152



Salvia-hall Quartet Series 152

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

ヴィジョン弦楽四重奏団

フロッホ
Ernest BLOCH
(1880-1959)

プレリュード (瞑想)
Prelude (Recueillement)

ラヴェル
Maurice RAVEL
(1875-1937)

弦楽四重奏曲 ヘ長調
String Quartet in F major
Allegro moderato. Très doux
Assez vif. Très rythmé
Très lent
Vif et agité

ドヴォルザーク
Antonin DVOŘÁK
(1841-1904)

弦楽四重奏曲 第13番 ト長調 作品106
String Quartet No.13 in G major Op.106
Allegro moderato
Adagio ma non troppo
Molto vivace
Finale; Andante sostenuto - Allegro con fuoco

ヴィジョン弦楽四重奏団

VISION STRING QUARTET (Berlin, GERMANY)

ヴァイオリン: フロリアン・ヴィライトナー ダニエル・シュトル
Violin: Florian WILLEITNER Daniel STOLL

ヴィオラ: ザンダー・シュトゥアート チェロ: レオナルド・ディッセルホルスト
Viola: Sander STUART Violoncello: Leonard DISSELHORST

2022年10月24日(月) 午後7時開演 / サルビアホール3F音楽ホール
Monday, 24 October 2022 7:00P.M. at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会

共催: 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

ヴィジョン弦楽四重奏団



2012年結成、数ある同世代の弦楽四重奏団の中でもとりわけユニークな存在として注目を浴びている。レパートリーは、クラシック作品に加え、オリジナル楽曲やフォーク、ロック、ファンク、ミニマル・ミュージックに至るまで多岐にわたる。

ベルリン芸術大学でアルテミス・クアルテットに、マドリードのソフィア王妃高等音楽院でギュンター・ピヒラーに師事した。2016年にジュネーヴ国際音楽コンクールで第1位、併せて聴衆賞も受賞した。同年年ヴェルト賞、18年ユルゲン・ポント財団より室内楽賞、2021年オスカー&ヴェラ・リッター財団よりリッター賞をそれぞれ授与された。

エルプ・フィルハーモニー (ハンブルク)、ベルリン・フィルハーモニー、ゲヴァントハウス (ライプツィヒ)、ウィグモアホール (ロンドン) 等の格式あるコンサートホールで毎年のように演奏している。また、メックレンブルク=フォアポメルン音楽祭、ラインガウ音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭、トロンハイム室内楽音楽祭、ルツェルン音楽祭にも招かれている。

ワーナー・クラシックスの専属アーティストとして、2021年全作品自作・プロデュースの最新アルバム「スペクトラム」を発表。2020年のデビュー・アルバム「メメント」は、オーパス・クラシック賞室内楽部門の最優秀賞を受賞している。

2022/23シーズンは、ボンのベートーヴェン音楽祭とボーデン湖音楽祭のアーティスト・イン・レジデンスを務めている。また、日本を皮切りに、韓国、メキシコ、南米へのツアーが予定されている。現在、ドイツ音楽協会より演奏活動の支援を受けている。

ブロッホ：プレリュード

ブロッホは、ブリュッセル音楽院でイザイに学んだスイスのユダヤ人作曲家。代表曲チェロと管弦楽のための「シエロモ」など、ユダヤ色の濃い作品を多く残している。この弦楽四重奏のための「プレリュード（前奏曲）」は、ブロッホ 45 歳の 1925 年の作曲、「瞑想」という副題を持ち、小品でありながらきわめて濃縮された作品でもある

ラヴェル：弦楽四重奏曲 ヘ長調

ドビュッシーとともにフランス印象派を代表するモーリス・ラヴェルは、唯一の弦楽四重奏曲を 27 歳の 1903 年に完成させている。翌 04 年の国民音楽協会の演奏会でエイマン四重奏団によって初演され、「わが親愛なる師ガブリエル・フォーレ」に捧げられた。この初演は、大反響をよび、ドビュッシーも絶賛したが、ラヴェル自身はこの成功に満足せず、かなり大幅な改訂を加え出版した。第 2 楽章（スケルツォ）は、ピツィカートによって奏され、中間部では全員が弱音器を付けて精緻な音楽を展開する。

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第13番 ト長調 作品106

請われてニューヨークのナショナル音楽院院長に就任したドヴォルザークは、その渡米中（1891-95）に、交響曲「新世界から」、弦楽四重奏曲「アメリカ」、チェロ協奏曲、弦楽五重奏曲第 3 番といった傑作を書き上げたが、望郷の念が次第に募って体調を崩し帰国することとなった。帰国後、しばらくは休養することとなったが、その後最初に完成させた作品がこの曲である。アメリカ時代からもう 1 曲の弦楽四重奏曲（のちに第 14 番として完成される）を書いていたが、その作曲を差し置いてこの曲を書き上げるこことなる。故郷に帰ってくつろいだ環境の中で書かれた作品で、もう 1 つの弦楽四重奏曲（第 14 番）や歌劇「ルサルカ」など共に晩年のドヴォルザークを代表する名作である。

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



横浜音祭り2022公募サポート事業



サルビアホール
クァルテット・シリーズ

Salvia-hall
Quartet
Series

153

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 50
QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

2022年11月15日(火) 19:00 開演

エスメ・クァルテット

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第6番 Op.18-6

コルンゴルト：弦楽四重奏曲 第2番 Op.26

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第6番 Op.80



Salvia-hall Quartet Series 153

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

クアルテット・ベルリン=トウキョウ

ハイドン
Joseph HAYDN
(1732-1809)

弦楽四重奏曲 第32番 八長調 作品33-3「鳥」
String Quartet No.32(39) in C major Op.33-3 "The Bird"
Allegro moderato
Scherzo; Allegretto
Adagio
Rondo; Presto

モーツァルト
Wolfgang Amadeus MOZART
(1756-1791)

弦楽四重奏曲 第16番 変ホ長調 K.428
String Quartet No.16 in E flat major K.428
Allegro non troppo
Andante con moto
Menuetto; Allegro
Allegro vivace

ベートーヴェン
Ludwig van BEETHOVEN
(1770-1827)

弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 作品132
String Quartet No.15 in A minor Op.132
Assai sostenuto - Allegro
Allegro ma non tanto
Heiliger Dankgesang eines Genesenen an die Gottheit in
der lydischen Tonart. Molto adagio -
Neue Keaft fühlend. Andante
Alla Marcia, assai vivace
Allegro appassionato

クアルテット・ベルリン=トウキョウ
QUARTET BERLIN-TOKYO (Berlin, GERMANY)

ヴァイオリン: 守屋 剛志 モティ・パヴロフ
Violin: MORIYA Tsuyoshi Moti PAVLOV

ヴィオラ: グレゴール・フラーバル チェロ: 松本 瑠衣子
Viola: Gregor HRABAR Violoncello: MATSUMOTO Ruiko

2022年10月31日(月) 午後2時開演 / サルビアホール3F音楽ホール
Monday, 31 October 2022 2:00P.M.
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会

共催: サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

クアルテット・ベルリン=トウキョウ



2011年、武生国際音楽祭の要請を受け、ベルリンで出会った4人によって結成された。翌12年ARD ミュンヘン国際コンクール弦楽四重奏部門にて特別賞 Förderpreis der Jeunesses Musicales Deutschland を受賞、松尾学術財団より奨学金を得ることとなった。13年には、イタリア・ヴェローナのサリエリ・ツィネッティ国際室内楽コンクールで第2位となり、聴衆賞も受賞した。

これまでにベルリン・フィルハーモニー、在ベルリン日本大使館、ベルリン日独センター、ヒンデミット協会主催コンサート、バレンボイム推奨コンサート等に演奏した。また、クラリネット奏者イプ・ハウスマンとの共演は、各方面から賞賛された。14年にはニューヨークのYCA (ヤング・コンサート・アーティスト) オーディションで第2位、オランダのオルランド国際室内楽コンクールで優勝、併せて聴衆賞も受賞し、10月にはアムステルダム・コンセルトヘボールに出演し、聴衆から喝采された。また15年には、オーストリアのグラーツで開催された「シューベルト&現代」国際音楽コンクールの弦楽四重奏部門でも第3位に入賞、16年には、ボルドー国際コンクールでファイナリスト(3団体)となり特別賞を受賞した。またエクサン・プロヴァンス音楽祭よりHSBC賞が授与されて同音楽祭の大使も務めた。

現在は、ベルリンを拠点に活動している。2013年秋よりハノーファー音楽大学でオリヴァー・ヴィレ(クス・クアルテット)に師事しており、15年からは札幌駅前に六花亭が開館した室内楽専用の「ふきのとうホール」のレジデンス・アンサンブルを務めるとともに、ベルリン十字教会の特別指定アンサンブルとしても演奏している。

日本室内楽振興財団

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



YOKOHAMA
OTOMATSURI

横浜音祭り2022公募サポート事業

次回公演

Salvia-hall Quartet Series Season 51

2023年 1月16日(月) 19:00 開演

カルテット・ティオティマ

ツェムリンスキー：弦楽四重奏曲 第1番 Op.4

リゲティ：弦楽四重奏曲 第2番

ブラームス：弦楽四重奏曲 第2番 Op.51-2

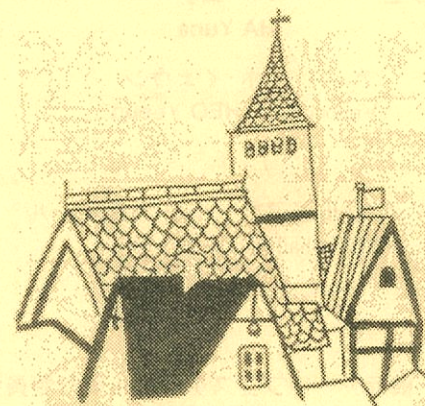


YOKOHAMA
OTOMATSURI

サルビアホール
カルテット・シリーズ

*Salvia-hall
Quartet
Series*

154



Salvia-hall Quartet Series 154

QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022

エスメ・クアルテット

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第6番 変ロ長調 作品18-6
Ludwig van BEETHOVEN String Quartet No.6 in B flat major Op.18-6
(1770-1827)
Allegro con brio
Adagio ma non troppo
Scherzo; Allegro
La malinconia; Adagio - Allegretto quasi allegro

コルンゴルト 弦楽四重奏曲 第2番 変ホ長調 作品26
Erich Wolfgang KORNGOLD String Quartet No.2 in E flat major Op.26
(1897-1957)
Allegro
Intermezzo; Allegretto con moto
Larghetto; Lento
Finale; Waltz

メンデルスゾーン 弦楽四重奏曲 第6番 へ短調 作品80
Felix MENDERSOHN-Bartholdy String Quartet No.6 in F minor Op.80
(1809-1847)
Allegro vivace assai
Allegro assai
Adagio
Finale; Allegro molto

エスメ・クアルテット

ESMÉ QUARTET (Köln, GERMANY)

ヴァイオリン: ベ・ウォンヒ ハ・ユナ
Violin: BAE Wonhee HA Yuna

ヴィオラ: キム・ジウォン チェロ: ホ・イエウン
Viola: KIM Jiwon Violoncello: HEO Yeeun

2022年11月15日(火) 午後7時開演 / サルビアホール3F音楽ホール

Tuesday, 15 Novemer 2022 7:00P.M. at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催: 横浜楽友会

共催: 横浜市鶴見区民文化センター
サルビアホール / 横浜アーツフェスティバル実行委員会
指定管理者: 神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体

助成: 公益財団法人日本室内楽振興財団

協力: 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

出演者のプロフィール

エスメ・クアルテット



2016年にドイツのケルンで4人の韓国人音楽家によって結成された。名称は、「愛された」または「尊敬される」といった意味の古いフランス語の単語から取られた。リュベック音楽院でアルテミス・クアルテットのハイメ・ミュラーに師事し、2018年に最高峰ウィグモア・ホール国際弦楽四重奏コンクールで第1位なり、併せて4つの特別賞(アラン・ブラッドリー・モーツァルト賞、ブラム・エルダーリング・ベートーヴェン賞、プロ・カルテット賞、エステルハーゲン財団賞)を受賞し、センセーションを巻き起こした。これ以後、ウィグモア・ホールをはじめ、ルツェルン音楽祭、エクス・アン・プロヴァンス音楽祭、バルセロナのオーディトリウム、ハイデルベルク弦楽四重奏祭等々に招かれて演奏している。

2019年「アルファ」レーベルから、ベートーヴェン、チン・ウンスク、ブリッジの作品を収録したデビューCDをリリース、批評家などからも高い評価を得ている。

2020年、ソウルのロッテ・コンサートホールの初代アーティスト・イン・レジデンスに選任され、マインツ科学・文学アカデミーとヴィラ・ムジカ・ドイツ音楽財団からハンス・ガール賞を受賞した。

現在、ハノーファーにおいてクス・クアルテットのオリヴァー・ヴィレに師事している。

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第6番 変口長調 作品18-6

ベートーヴェンは、ハイドンやモーツァルト時代の慣行を受けて、6曲の弦楽四重奏曲（第1～6番）を作曲し、3曲ずつまとめて出版した。後にあれほど集中する弦楽四重奏曲の最初の作曲は28～30歳と遅く、それだけに満を持しての作曲であるが、加えてこの第6番は、実際にはその5曲目の作曲ということもあって完成度も高く、若きベートーヴェンの鋭刺さを感じられる作品である。

コルンゴルト：弦楽四重奏曲 第2番 変ホ長調 作品26

コルンゴルトは、オーストリア＝ハンガリー帝国のブリュン（現在はチェコのブルノ）生まれ、幼少期から「神童」「モーツァルトの再来」として将来を囑望され、マーラーも絶賛した。23歳で発表したオペラ「死の都」の成功により、当時のウィーンを代表する作曲家として評価を得、ウィーン市の芸術勲章やウィーン音楽大学名誉教授の称号も贈られた。ユダヤ系であったために、ナチス・ドイツがオーストリアを併合するとアメリカへ亡命、生活もありハリウッドに身を投じ、アカデミー賞を受賞するなど、映画音楽の大家として一世を風靡することとなった。第2次大戦後は、純音楽に回帰したが、映画音楽での成功イメージが強く、評価されることなく（特にウィーンで！）失意の中で没したが、近年は再評価が進み、ヴァイオリン協奏曲は各オーケストラの定番曲となり、「死の都」も頻繁に上演されている。この弦楽四重奏曲第2番は、初めてハリウッドを訪問する直前のコルンゴルト36歳、1933年作曲、初期の作品に見られる濃厚な後期ロマン主義的傾向は弱まり、映画音楽の大家への方向性も感じられるいかにもウィーン風といえる曲となっている。第2楽章はアレグレットのインテルメッツォ、フィナーレはヨハン・シュトラウスを彷彿するワルツ！

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第6番 へ短調 作品80

1847年9月、死の2か月前に完成したメンデルスゾーン最後の弦楽四重奏曲である。この年の5月、作曲家としても著名な最愛の姉ファニーが他界し、メンデルスゾーンは大きなショックを受けたが、その悲しみがこの曲にも反映されている。メンデルスゾーンは作品の多くが明るく鋭刺としているが、この曲はその例外的雰囲気にも包まれている。そして、メンデルスゾーン自身姉の後を追うこととなる。曲は、他の5曲の弦楽四重奏曲同様の4楽章構成で、第2楽章にはスケルツォが採用されている。